

川  
柳  
集

ほん  
と  
の  
ほん  
と

三  
木  
今  
朝  
雄  
著

はじめに

川柳集『ほんとのほんと』は昭和五十二年以来二十数年にわたり、私の日常生活のなかで、おりにふれときにふれて詠んできた川柳のうち、「産経新聞」ぐんま川柳に掲載された作品を集めたものです。

また、掲載した作品はすべて、全日本川柳協会常任幹事で産経新聞ぐんま川柳選者である、清水惣七先生の選になったものです。先生には大変お世話になりました。心から敬意を表し厚く御礼申し上げる次第です。

ともあれ文字どおり稚拙な作品ばかりですが、私にとりましては一句ごとにそれぞれ一生懸命に作ったものです。ご笑覧願えれば幸甚です。

平成十三年七月 三木今朝雄

ひとまわり小さいたまごそつと替え

名場面隣の席も眼鏡拭き

犯人も警察犬の鼻に負け

自慢する矢先に名馬癖を出し

北方の話になると尻込みし

議長団メリットなしで金をかけ

行革の真っ只中に定数増

老いらくの恋もめばえる球技場

花束の贈呈母はやはり泣き

過疎の村ドル箱やたら減っていき

父の日もあつて意味ない独り者

三選と任期延長またにかけ

ボーナスを半分のせてカー走り

カラオケにゲートボールのよき時代

梅雨明けの暑さ一度にやってくる

お互いにちよつぴり増えた顔の皺

発掘は古代の時を掘り起こし

貿易は黒字家計はうるおわず

クラス会よくしゃべるのは劣等生

控え目で長続きする嫁姑

いい婆になるといいつつまた小言

犯罪の動機もつともらしく述べ

へそくりの置場がばれる妻のかん

違反選挙議席の代価高くつき

よく稼ぐ妻でご亭主働かず

七五三ビデオと車パパの役

マル優を案ずる程の余裕なし

還元は遅く利下げはまったなし

輪をかけた年賀はがきは売残り

トントンは師走の人気かき集め

迷信といいつつ恵方向く弱さ

年玉に敬老年金もってかれ

丙ひのえうま午新成人の数が減り

蔵相の帰国を待って粹外し

再三の利下げ預金も魅力失せ

定数減地方議員が範しめし

売上税ふれず国会空転し

列島が売上税で揺れ動き

倒産に内需拡大間に合わず

いざとなりやお墨付きより票の数

中曾根さんついに読経で気をしずめ

大型を中型とよび間接税

公約も屁理屈つけて反古にする

世の流れ嫁に仕える姑増え

核家族二重世帯で無駄ばかり

解禁日名人顔で家を出る

父の日はさけて手ぶらの子供づれ

派の中で系と系との小競合い

幹事さん宴会の後飲みなおし

初対面名刺と顔を見比べる

ゴリ押しで理屈は無視の米<sup>こめ</sup>議員

温泉も商品にされ宅配便

代議士の数では自慢のお国柄

秋迫りニューリーダーも吐く本音

御神輿に一年の汗みんな出し

小会派どこにつくかで決る運

いい嫁と口で言いつつかげで泣き

痩せますよただそれだけに騙される

中流も家賃を払う日本国

家持って定年後まで続くローン

はした金賄賂で前途棒にふり

褒め合って最後の会談ロンとヤス

預貯金の平均額は夢数字

眺めてて休みあがりの庭園師

面倒は見ずに財産だけ目当て

脱税も番付つくるように増え

旅先で大法螺どうしが吹競い

言葉より背なで教える父となり

割当の大臣やはり物足らず

混浴の方が賑わう露天風呂

非常口たしかめてから着替える

日本一決めたボールを仰ぐ空

底辺の暮しは知らぬ天下とり

幹事さん酔った塩梅見てまわり

新春の挨拶みんな辰を入れ

相撲界震撼させて綱は去り

一年の計立てて現実ともなわず

おたかさん台詞をかえて茶を濁し

根まわしの政治の是非は論じかね

円満の陰で姑はじつと耐え

花粉症男まさりも泣かされる

我が党であいた口から手前味噌

公立にパスして孝の子と言われ

湯祭りの女神まぶしく向くカメラ

拾得金ネコババ始末税でつけ

現実の豊さなくて世界一

我が家とは名前だけなりローンの家

お見合いも紹介だけで気をきかせ

お見合いも数をこなせば度胸つき

乱闘はソウル五輪の新種目

国会の審議も止めるリクルート

我が家でも一人出したい芸能人

低辺を知らぬ輩が税を決め

カラオケにプロ顔負けの衣装つけ

福達磨やはり最後は顔で決め

改造は派閥割当ところてん

初場所を涙の勝利北勝海

豪華雛見栄は張りたし金足らず

葉書まで一円乗せて消費税

酔ったふり勘定すめばしゃんとなり

大トラも一度に醒める妻の声

野天風呂訛りちがいも話しかけ

百薬の長だんだんに量を増し

適齡期すぎて望みはまだ同じ

四面楚歌なおも未練なトップの座

誕生から墓場にまでも消費税

リクルート総理生み出す金も出し

身边はいつも綺麗きれいと賄賂とり

ボーナスの振込み妻は大歓迎

党籍の離脱に期間ついてなし

振込みで手ぶらで帰るボーナス日

自民不信野党頼れずなを選ぶ

禁煙をすすめ売上げピール

納涼を汗で演じて見せる人

色褪せた妻が家計をきりもりし

折一つ帰省の客の長逗留

予想屋は鉛筆だけで家計立て

ムード勝ちされどおご驕りは許されず

大国と言われ実感未だわかず

国債をかかえ外地に金を出し

古希でなお嫁と言われる長寿国

低辺も長者も同じ消費税

腹八分だけではすまぬ高い空

金バツチ憂国の士はあらわれず

与野党のパチンコめぐり泥仕合

老練も婦人若手に先こされ

離壇に野党が並ぶ消費税

消費税福祉のためとこじつける

見直しは思いきつてと尻つぼみ

年賀状やめればポスター派手に貼り

絵馬を書く顔は真面目な子にもどり

四島も蒟蒻問答して帰り

義理チョコと判っていても胸おどり

消費税いやといいつつ自民支持

異動月窓際族で気は揉めず

ハッキリというが取り柄で出世せず

志士も出ず鞍馬天狗も現れず

大店法大物たちが大奇弁

防大も卒業までで進路変え

割勘で長続きするいい仲間

平等がいまだわからぬ消費税

政治家は昔散財いまは貯め

夏休み教師も子らもタガゆるめ

党勢の伸びぬ公明策を変え

消費税野党の鼻息尻ぼそり

貢献策結論も出ぬ無能ぶり

帰省客田舎の嫁の泣き笑い

坊ちゃんを気取って浸かる道後の湯

いざという時にあいまい海部流

会談の後は援助を背負い込み

解放に土下座礼状ただ呆れ

平和賞自国の民のさめた顔

世論には鉄の女も座を下りる

指導力バラマキだけの海部さん

サッチャーも後は秘蔵っ子トップにし

元長官金の亡者となりさがり

体力の伸びに能力おいつかず

高齢を鈴木おろしのたねにする

行政も塵に追われる浪費国

湾岸のつぎは貿易再燃し

都知事選判官びいきも上乘せし

秋にらみ内は火花の自民党

多数党中は寄り合い敵味方

改革はたてまえ本音は秋の陣

健康法ただ聞くだけで役立てず

吟行の着膨れもいる梅三分

与野党も国会裏はなれあいで

政界のドン脱税の範を垂れ

お手盛で不況しりめの議員族

露天風呂肩書なしの友ができ

Gセブン欧米圧力もろにきき

お祭りも裏方さんは報われず

蝦<sup>え</sup>鯛<sup>びたい</sup>を見こむ母の日プレゼント

選挙にも世界の手がいるカンボジア

平成の夜明け保革の関ヶ原

Gセブン電話討議ですむ程度

低温に燗酒で飲むビアホール

連立へ自民野党は目の敵

披露宴豪華な料理値踏みする

野次罵倒議員というのは顔ばかり

年金もただで受けてる訳でなし

国予算四苦八苦でもする支援

君が代と国旗が好きな新総理

農政の不手際ついにツケがくる

連立の閣僚違憲を口に出し

米不足左党も気になる仕込時期

日の本は汚職買収後たたず

消費税打ち出の小槌にならぬよう

引越の蕎麦も名刺で間に合わせ

支持率のように参らぬ新政権

福だるま一格おとす不況風

気にもせずカードで買つて破産する

節減の工夫はせずにとる工夫

官僚の意のまま動く内外政

選良に愛国の士は見当たらず

改革の定数減はかげもなし

不景気に理屈はぬきの神頼み

農の国休耕のツケ米を買い

米国へ殿城代も出っばらい

無駄使いなくせば新税いらぬほど

元大臣黙秘でとおす脛のきず

宰相の発表一夜で反古にされ

お手盛で不況尻目にアップ決め

米不足気にもとめない戦中派

こんなとき役に立たない米管理

国産米一時かくれて高くなり

輸入米届いて騰い米を買い

野合でもただ権力が欲しいだけ

交際の程度で中元間引きする

やさしさで国がまわれれば苦勞なし

無駄使いやはり減らせぬ国予算

大店の進出多く町廃れ

変身も党はどこへ社会党

消費税アップ社党のなきどころ

半世紀謝罪外交いつ終わる

ままならぬ二つの顔の新総理

減税の財源やはり消費税

増減収いずれも困る米農家

弱者にもやさしい政治見当たらず

無駄使い特殊法人もういらぬ

消費税嫌った主がアップする

尊徳を顧問にしたい国財政

自衛隊継子あつかいいま崇り

暗記した謝辞で息つく余裕なし

震災に官邸無能さらけだし

心せよ謝罪と補償ワンセット

無能ぶり国を束ねるタガゆるみ

披露宴新婦と女房見比べる

ボーナスもののびず女房に低姿勢

中元の相手も妻と選択し

五十年決議で他はかえりみず

連立は政権維持に日をすごし

政党は助成のほかに金集め

年金で食べて球技で日をおくり

各国の制止無視する核実験

胃検診すんで格別飯の味

国予算無駄もそのまま引継がれ

支援米献上米にされかねぬ

柔道の猛者も女房にははいと言い

禁煙も医師の指示ならその日から

宿につき先ずは見ておく非常口

三世代同居の食事ひと苦勞

嫁姑好いも悪いも紙一重

責任は減俸にしてかたをつけ

金儲けできず取り柄はただ真面目

相手の名別れ間際に思い出し

忘れ物とりに戻ってまた忘れ

待合で聞けば誰もが風邪といい

弱腰の外交いつも舐められる

夏休みママの寝坊もあと三日

官僚の意のまま動く日本国

若いですその一言に気をよくし

七五三ママの着付けを優先し

良い年を神と約束して帰り

福袋頭の上を越えていき

政治道けものの道とついに化し

大蔵のキャリアアゆすりに転落し

いつまでも揉み手外交舐められる

大看板かけ改革埒あかず

手前みそ閣外協力見放され

失政に政治ばなれの民となり

選良も公僕までもいまは死語

ひととおり呼んで孫の名思い出し

国防も内から揺らぐ国となり

気前よく援助を決めて赤字債

七五三ママの晴着のコンクール

愛犬も景気良し悪し餌で知り

大太鼓総理育てた山の町

針供養どの娘も真面目な顔となり

義理チョコか本物なのかちと迷い

地域券その分だけは預金にし

舐められていまだに懲りぬ訪朝団

国債でお手盛予算気にもせず

ご粗末な国防意識にただ呆れ

正論も数には勝てぬ多数決

定数の話になると足踏みし

たてまえと本音がちがう人集め

ひさびさの珍客実は金無心

閉め出され軒場で明かすご前様

テポドンも拉致もとばけて援助乞い

国債であまり気にせず組む予算

赤字では記録づくりの国となり

国債を預金のごとく組む予算

福達磨縁起かついで廻り道

義理チヨコに胸躍らせるもてぬ奴

四島を戻せる総理九分はだめ

選良も初心忘れて賄賂とり

プロ野球家族同士もライバルに

国会は質すも答もまとはずれ

米<sup>こめ</sup>支援馬鹿になるのも程があり

北鮮にすぎた援助も役立たず

迷信で恵方参りは高くつき

敷地内で子は別棟に住みたがり

病気より胃力メラ嫌う人もあり

原稿を忘れ仲人立往生

プロレスラー花粉症には技がなし

妻臥して煮炊きの苦勞肌で知り

世のながれ女首長も出る時代

自衛隊有名無実で役立たず

国防に他力依存ゆるされず

## 川柳集について

「ほんとのほんと」は、二十数年にわたる永い年月をかけて詠んだ作品を集めたものです

その時々、の社会状況にも現在同様に日々変化があり、また、時代の推移がありました

そうした背景も句のあちこちに見受けられることと存じますが、ご諒解のうえご笑覧願えればと一筆添えさせていただきました